

国際交流協会ニュース

—Ichihara International Association—



2025年12月2日 発行 市原市国際交流協会
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所 スポーツ・文化振興課
TEL 0436-23-9866 FAX 0436-21-0332
e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp
ホームページアドレス <https://iia-ichihara.org/>



2025年モバイル青少年訪問団来市

□ 2025年市原市・米国アラバマ
州モバイル市 姉妹都市青少年
訪問団受入れ

□ 青少年交流会に参加して・アラ
バマからのホームステイ受入れ
の感想

□ 第15回サマースクール実施報告



2025年サマースクール

2025年市原市・米国アラバマ州モビール市 姉妹都市青少年訪問団受入れ

7・23～31

この夏、姉妹都市モビールから青少年訪問団12人が来市、学校訪問、市内見学、市原市青少年との交流、日本文化体験、武道館、博物館見学等盛沢山の日程で7月23日から31日まで9日間、暑い夏を縫って市原を満喫しました。7月26日五井グランドホテルで行われた歓迎レセプションでは小出市長による歓迎の挨拶やプレゼント交換が行われました。

7月23日（金）受入れ式



26日（土）市内見学

湖畔美術館、トロコ列車、笠森観音などを訪ねました。



28・29日（月・火）青少年交流会、学校訪問、日本文化体験



25日（月）東京見学

東京見学は浅草寺、スカイツリーなどを訪問しました。



29日には初めての回転ずしを楽しみました。



26日（土）歓迎レセプション

26日には歓迎レセプションが五井GHで盛大に行われました。モビール青少年訪問団のパフォーマンスでは学校生活やモビール市に関する寸劇が披露されました。



30日（水）武道館、博物館



青少年交流会に参加して

7・28

いちほら し りつ し どうちゅうがっこう ね もと けん た ろう
市原市立市東中学校 根本 健太郎

わたしは、7月28日に三和コミュニティセンターで行われたモビール青少年訪問団との交流会に参加しました。一昨年に行われた交流会に続き二回目の参加でした。意見交換会では自己紹介の名刺をグループの方や先生方に渡し、私を知ってもらおう所からのスタートでした。

英語での話は全部を理解するのは難しかったけど、表情やジェスチャー、また先生方やグループの方に訳してもらい、理解できました。話の中で特に驚いたのは運転免許をすでに取得している人がいたことです。うちわに書く書道では、書道を習っている私でも、バランス良く書くのは難しかったけど、訪問団の方は筆を上手に使いこなして書いていたのでびっくりしました。草木染めは、仕上がりの模様を考え、輪ゴムをきつくとめるのが大変でしたが、みんなとても綺麗に染めることができました。

訪問団の方はみんな明るくて、笑顔が多く、何をやるにも楽しそうだったのが素敵だと思いました。交流会は明るくのりが

よく、楽しい空気でいっぱいでした。同じ活動をするのでも明るく楽しく参加するだけで、楽しさは倍増したように感じました。これから私は様々なことを思いっきり楽しみ笑顔で参加したいと思います。そして、もっと英語を学び、自分の気持ちをユーモアを加えながら、伝えられるようになりたいと考えています。次の交流会を楽しみにしています。貴重な体験をありがとうございました。



アラバマからのホームステイ受入れの感想

7・23~30

なかむら く み こ
中村 久美子

引率のジャッキーを受け入れた中村です。20年前に生徒さんを2回4人の子供達と共に受入れ良い経験でした。今年改めてホストファミリーを申し込んだ所、既に一杯で万一の時をお願いしたいと言われ、諦めていました。ところが、前半、後半9日間の引率者はどうでしょう？とお話を頂き、ヤッターと天にも昇る思いで嬉しくて、即OKしました。とにかく今年は暑く、ジャッキーの部屋に小型冷蔵庫と飲み物を用意、腰が悪いとのことで厚めのマットレスを準備し、後はありのままの生活を心地良く快適に過ごして頂くことと心待ちにしていました。



ホームステイが始まり、朝夕の食事の時間は本当に楽しくて会話が弾み、勿論AIに助けられながら、家族のこと、趣味、旅行、それぞれの

日常生活など多くの話題で盛り上がり、毎日時間をわすれる程和気あいあいに過ごしました。食事は野菜中心で特に日本食という訳でもなく、スパゲッティ、唐揚げ、ピザなど手軽な物で喜んでくれました。そしてメインのフリーデーはジャッキーの意向を重視しようと、鎌倉の大仏希望でしたが、混雑が予想されるので、浜金谷の日本寺の大仏に行き、鋸山のロープウェーに乗り、更にフェリーで久里浜まで行くという過酷なスケジュールでしたが、よく付いてきてくれ、オーシャンビューでランチ、ショッピング、かき氷も食べました。2回目のフリーデーは茂原七夕祭りに行き、駅前でライオンズクラブが募金活動をしており、ライオンズ所属のジャッキーはとても感銘を受け、素敵なお会いもあり、良かった。七夕の前にエステに行き、ランチはしゃぶしゃぶで私もジャッキーもとても夏を満喫しました。遠いモバイルから市原にお越し頂き日本の伝統文化を学ばれ、とても尊敬しています。少しでもこのホームステイが皆様の思い出の1ページとして記憶に残れば幸いです。素敵な機会を頂き本当に有難うございました。

第15回サマースクール実施報告

7・25

日本語教室部会 行方 紀枝



Aクラス（小1～小3）の学習状況

2025年7月25日（金）市原市青少年会館にて、第15回サマースクールが開催された。参加者は生徒31名、ボランティアは午前中の学習指導24名、午後の実験指導15名、お客様1名、合計71名であった。

児童生徒は31名参加したが、クラス区分は以下の通りであった。

Aクラス 幼児・小1～小3 11名 ⇒ 集会室で学習 ⇒ 担当ボランティア8名

Bクラス 小4～小6 10名 ⇒ 集会室で学習 ⇒ 担当7名

Cクラス 中学1～高校 9名 ⇒ 美術室で学習 ⇒ 担当5名

Dクラス その他 1名 ⇒ 会議室で学習 ⇒ 担当1名

（会長、受付2名は午前中の学習指導を除く）

児童生徒の出身国別区分は以下の通りであった。中国13名、フィリピン6名、ペルー3名、ネパール3名、タイ1名、ベトナム1名、インドネシア1名、ポリビア1名、日本2名。9：25～12：00の間、児童生徒が持参した宿題や苦手な教

科を勉強したが、宿題がすべて終了となった児童もいた。その他終わらなかったがかなり進んだと答える児童生徒が多かった。午前中だけの短時間だが、自宅よりも集中して効率よく学習できたようで、また来年も来たいという声が聞こえた。指導者の方も、「難しいことを聞かれたら分からない」と事前に不安を感じた方も、「一緒に勉強して楽しかった」と言っておられた。



午後の化学の実験の状況
（水といろいろな物質をまぜて温度変化を調べる）

午後は、「冷却パックを作る実験」を行った。水と尿素有るをまぜて冷却液を作った。また、冷却液を入れるパックの飾りつけは、化学の難しいことは理解出来なくても、楽しく作業に取り組んでいた。暑い季節だったので、冷却パック作りは子どもも大人も楽しめた。ただし、注意事項を守らず薬品をこぼした生徒がおり、実験指導者に迷惑をかけてしまった。

例年と異なることは、午前中の学習時間の終了時に、勉強を頑張ったことに対して「修了証」を授与したことである。なかには、文字が読めなかったり、意味が分からなかったりした子供もいたが、多くの子供達が「修了証」をもらってうれしそうにしていた。



午前中の学習が終わり、修了証をもらってうれそうな子供達

また、化学実験だけでなく、学習中も事故に繋がる危険性が潜んでいるので、全員障害保険に加入した。幸いなことに何事もなく終了した。

尚、参加者は例年小学生が多かったが、幼稚園児や中学生も増えた。日本語の習得だけでなく、学習内容の理解の必要性を感じているようである。